

『カブトムシとクワガタ―見つける・
 育てる・観察する』を読んで
 五年一組 ●●●●
 去年の夏は悲しかった。
 田舎のおじいちゃんが、裏山で捕ってくれ
 たカブトムシを、二週間で全滅させてしまっ
 たからだ。えさもきちんとやっていたし、大
 切に育てていた。しかし、カブトムシは死ん
 でしまった。かわいそうと思う気持ちと、せ
 っかく捕まえてきてくれたおじいちゃんに悪
 いことをした気持ちでいっぱいになった。
 今年もおじいちゃんにはカブトムシを送って
 きた。クワガタも入っていた。去年のような
 ことにはだけはならないようにしよう。あんな
 に悲しく、つらい思いをするのはもういやだ。
 お父さんもカブトムシを全滅させたことが
 気になっっていたらしく、会社の帰りに『カブ
 トムシとクワガタ―見つける・育てる・観察
 する』という本を買ってきてくれた。

何がいけなかったのか、どうして二週間で全部死んでしまったのか、お父さんと二人で本を読みながら調べた。その日は金曜日だったこともあるが、気がついたときには午前一時を過ぎていた。こんな遅い時間まで、お父さんと一緒にカブトムシの研究をしたことで、少し大人になったような気分だった。去年失敗した原因の一つは、えさだった。スイカの残りをやったが、水分が多いのでカブトムシがおなかをこわすということだ。もう一つは、暑いところに置いたのもよくなかった。カブトムシは夏の虫だから、暑い方がいいと思っただが、間違いだった。さらに、一つのケースで、カブトムシをたくさん飼ったのもいけなかった。一つのケースにオス一匹、メス一匹で育てるのがよいということだ。今年も失敗しないように、専用のえさと、カブトムシとクワガタそれぞれの飼育ケース、ケースの床に敷く発酵マットを近所のペットショップで買った。そして、本に書いてある

ように飼育ケースの中を整え、涼しいところに置いた。あとは本を読みながら育てれば、去年のような失敗はしないだろう。さて、夏も終わりになったが、カブトムシもクワガタも元気で生きている。カブトムシは一年で死んでしまう昆虫だが、夏の間、精いっぱい生きてくれた。あと何日生きていられるか分からないが、それは生き物が持つ寿命だ。仕方がない。しかし、ぼくにはカブトムシの命をつなぐこと、カブトムシが産んだ卵をふ化させ、来年、成虫となる子どもたちの世話をしてあげる義務がある。クワガタは越冬できる種類なので、来年も元気な姿を見せてくれるように、秋になってもしっかりと管理をしなければならぬ。カブトムシのふ化も、クワガタの越冬も今年がはじめてだ。うまくいくかは分からない。だが、生き物を飼ったら、最後まできちんとして育てるのが飼い主のつとめだ。カブトムシとクワガタの飼育は夏が終わってからも続く。